かみのやま 歴史・文化財さんぽ

第３９号（令和３年１０月）

かみのやまはんりょう 上山藩領

きょうかいせきひょう 境界石標

あゆむ「今日は、北と南の石標だって？」
ミドリ「そう、上山の北と南の境目の印ね。」
ふみお「境界石標と言うらしい。」
あゆむ「それじゃあ、今日は北から南まで動くんだ。」
ミドリ「そうよ。それで、まずは北ね。」
あゆむ「国道を山形の方に行けばいいのかな。」
ふみお「いやいや、昔の街道を行かなければならない。」
あゆむ「というと、どこ？」
ミドリ「確か、四ツ谷の方だったわね。」
文じい「四ツ谷の坂を登ってきて、さらにここから上に登るのじゃが、やぶになってしまっておる。　毎年、草刈りをやっておるのじゃが、今年は雨でできなかった。」

ふみお「カーブする舗装道路はあとからの道で、この上だよね、石標は。」
あゆむ「あ、あれだ！説明板も立っている。」
ミドリ「『従是南上山領』という字だけど・・・。」
文じい「“従”は“より”。“是”は“これ”。それで“これより南、上山領”と読む。」
ふみお「“江戸時代に、領と領の境を示す目印として設置され、街道を往来する人々にとって重要な役割を担ってきた”とある。」
あゆむ「領というのは？」
文じい「領は領地、藩というのは当時はあまり使わなかったから、上山領でいいのじゃが、藩をつけたのは、わかりやすくするためじゃろう。」

あゆむ「絵もあるよ！　柱がたっている。これだね。」
ミドリ「お地蔵様もいるわね！」

あゆむ「ここにお地蔵様なんていないけどな。」

ふみお「説明に、最上領、つまり、山形領との境界で、地蔵堂や花立峠と呼ばれていたそうだ。地蔵様が確かいたような・・・。」

あゆむ「説明がもっとあるよ。」

ミドリ「木製の境界標から石標に改められ、五十嵐柔兵衛という人が揮毫したとあるわ。」

ふみお「揮毫というのは、書くことだよね。」

ミドリ「“明治になって、ある旅館の庭園に移され、その後、毀損する事故が生じました。”と書いてあるみたい。」

文じい「こわれたので、二代目の石標が下大湯共同浴場南の鶴泉園に設置された。」

ミドリ「あ、そういえば、確かにあったわね。」

ふみお「“市制60周年及び上山郷土史研究会設立60周年にあたり、旧地、つまり元の場所に移設された”ということだね。」

文じい「下湯温泉組合のご厚意によるが、旧地ははっきりはしなくなった。地蔵尊も、ほれ、道路向かいのあそこに移された。」

花立て地蔵尊　　無縁法界平等利益碑

あゆむ「あ、あれだ！絵とはだいぶ違うな。」

文じい「絵は、少し格好つけられたようじゃ。」

ミドリ「大きな碑も立っているわ。」

ふみお「“無縁法界平等利益”というのかな。」

文じい「天保の飢饉の時に、飢えでたおれた多くの人を供養した碑じゃ。」

あゆむ「さあ、今度は南の方だな。」

ミドリ「昔の街道でとなると、金山峠の方？」

文じい「ふむ、その通りじゃな。金山峠の境は仙台領との境でもあり、こちらの出羽の国と向こうの陸奥の国との境でもある。境を表す杭や樹木があったようじゃが、残念だが残ってはいない。次に見に行く境界石標は、米沢領との境のものじゃ。」

ミドリ「ということは、中山の方ね。」

あゆむ「あれ？ここは前に来た大石のところだ。」

ミドリ「そう、掛入石だったわね。そういえば確か下の方に何かあったわ。」

ふみお「あ、あれだ！ 降りて行ってみよう。」

ミドリ「えーと、『従是北上山領』。そして、米沢街道沿いの上杉領との境界とあるわ。」

ふみお「さらに、“明治維新後、清野伸昭氏の邸宅に移され、永年にわたり保存管理されてきたが、市制60周年記念にあたり、ご厚意により移設された”とある。」

文じい「ふむ。平成26年、いろんな人たちの努力とご厚意により、およその元の所に移された。とても意義の深いことじゃな。昔、たくさんの人々がこれを見て次の領地に入ったことが目にうかぶようだ。」

発行：　上山市教育委員会生涯学習課文化財・文化芸術係　　電話　023-672-1111（内線 314）